

## 副作用について説明することで患者の不安を軽減した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、患者からの副作用についての相談に応需することで、患者の不安を軽減し、薬物療法を継続できた事例のプレアボイドを紹介いたします。

### 患者背景

▶肺癌に対して加療目的にて入院した患者

【持参薬】

酸化マグネシウム錠 330mg 1日3回 1回1錠

Tさん



Tさんこんにちは。  
入院にあたって、今飲んでいるお薬を確認させてください。



薬剤師



Tさん

今飲んでいるお薬はこれです。  
この下剤のお薬(酸化マグネシウム)は、ずっと飲んでるんだけど飲み続けても大丈夫でしょうか。高齢者は副作用が出やすいって聞いて…  
副作用が出ると怖いから、飲むのやめようか悩んでるんです。

なるほど、酸化マグネシウムの副作用が心配なんですね。  
一度、先生に検査をお願いしてみましようか。



担当医に血清 Mg 濃度の測定を依頼し、血中濃度は正常値範囲内であった。

Tさん、血液検査の結果、現在の体の中のマグネシウムの量は問題ありませんでした。  
酸化マグネシウムの副作用の初期症状として、「吐き気、嘔吐、立ちくらみ、めまい、脈が遅くなる、皮膚が赤くなる、力が入りにくくなる、体がだるい、眠気でぼんやりする、うとうとする など」があります。こういう症状があるときは、早めに医療従事者に相談してくださいね。



お通じの出が悪いから、続けて飲めるなら良かった。  
副作用の症状に気を付けて、お薬飲みます。

高マグネシウム血症の自覚症状などについて患者資材を用いて説明し、酸化マグネシウムの服用を継続することとなった。その後、排便コントロールは良好なまま経過した。

副作用の初期症状を説明することで、患者が安心して薬物療法を継続することができた。